国立国会図書館月報

NATIONAL DIET LIBRARY MONTHLY BULLETIN 2020.3

本の森を歩く
伝説の講釈師、馬場文耕とその著作

国立国会図書館で働いてます

休館日のNDL

707号　2020年3月

国立国会図書館月報

NO. 707
MARCH 2020

CONTENTS

1 霧の中を行けば
—中谷宇吉郎の書簡
今月の一冊　国立国会図書館の蔵書から
6 本の森を歩く　第22回
伝説の講釈師、馬場文耕とその著作
14 国立国会図書館で働いてます　no. 3
18 休館日のNDL
22 ミニ電子展示「本の万華鏡」第27回
百貨店ある記　～買うときめき、めぐる楽しみ～
17 本屋にない本
『没後50年藤田嗣治本のしごと』
24 館内スコープ
消費税率変更の裏で
25 NDL Topics

表紙：
「鳥毛物芝居見物」芳藤 画
『芳藤手遊絵尽』
［大正 8］温故木版印刷会　42 枚　19 cm
<請求記号 186-246 >

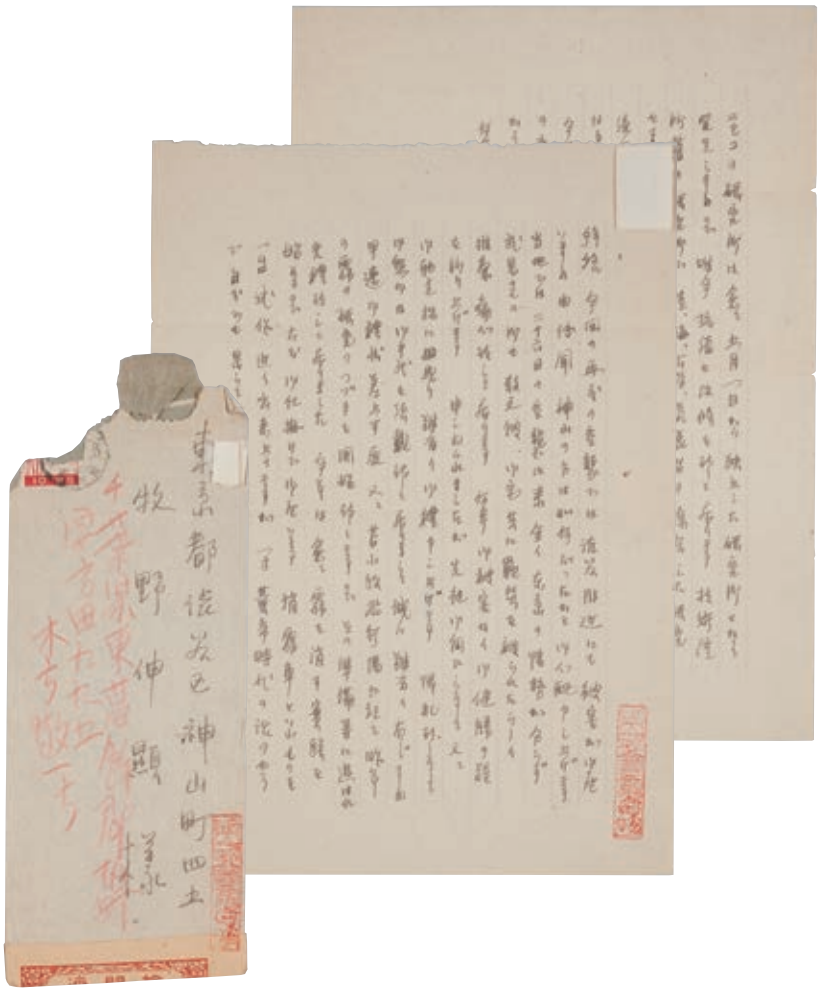
今月の一冊　国立国会図書館の蔵書から

霧の中を行けば　―中谷宇吉郎の書簡

眞子ゆかり

中谷宇吉郎（1900-1962）
物理学者。東京帝国大学理学部で寺田寅彦の教えを受ける。卒業後、理化学研究所で寺田の助手となり、英国留学後、昭和5（1930）年北海道帝国大学助教授、昭和7（1932）年同教授となる。雪の結晶の研究に取り組み、昭和11（1936）年世界で初めて人工雪を作ることに成功。随筆家としても知られる。

肖像の出典：『現代随想全集　第10巻（寺田寅彦、中谷宇吉郎集）』創元社　1953<請求記号 914.6-G295>



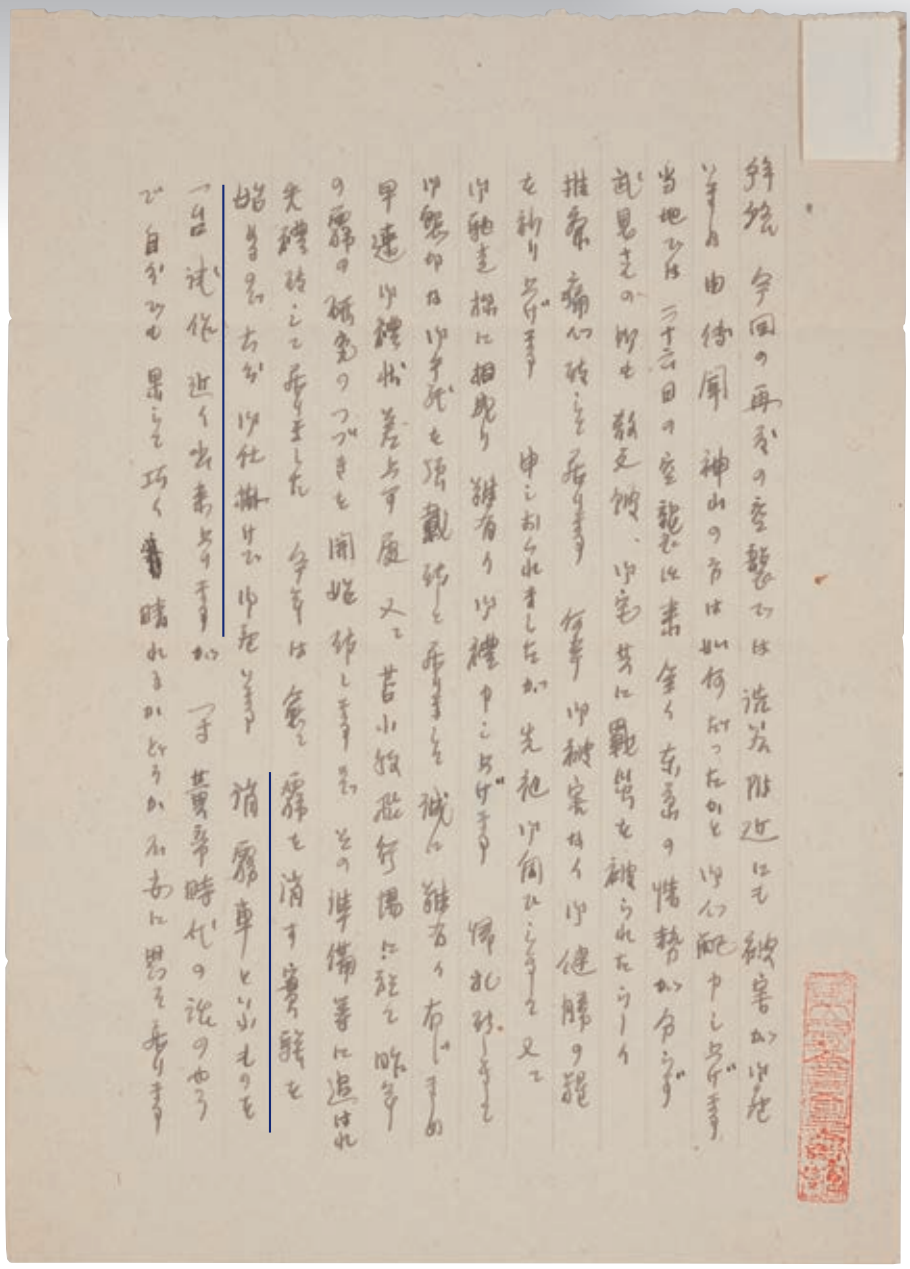
中谷宇吉郎書簡　昭和20（1945）年6月6日
<牧野伸顕関係文書360-1>

消霧車といふものを一台試作、近く出来上ります

中谷宇吉郎は、昭和20（1945）年5月下旬の空襲後の牧野伸顕を見舞う書簡の中で、その多くを割いて、苫小牧飛行場とニセコの研究所で行っていた研究の進捗状況を淡々と報せている。とは言え、米軍の空襲が日本各地で甚大な被害を及ぼす中、「多分正規の活動を続けてゐる研究所としては、日本で最後まで残るものになるのではないか」という悲壮な見通しには、避け難い破局の予感が読み取れる。文中に出てくる「消霧車」の開発は、滑走路を覆う霧を人工的にはらして航空機の飛行を可能にしようと進められていた戦時研究で、その後、「試験がほぼ完了して、一同ホッとした時に終戦になった」[1]。

雪の結晶の研究に取り組み、世界で初めて人工雪を作ることに成功した物理学者と、明治の元勲大久保利通の次男で宮内大臣や内大臣を務めた牧野伸顕。この二人を結び付けたのは、書簡中でも被災したらしいとの噂を聞いて心配されている武見太郎である。医師である武見は牧野の孫娘と結婚することになる以前、旧知の岩波茂雄と小林勇から託されて、手の施しようもないほど重篤な状態に陥って

※紺の文字は書簡からの引用で、読点を補った。
　また、本文中の引用の旧字体は新字体に改めた。



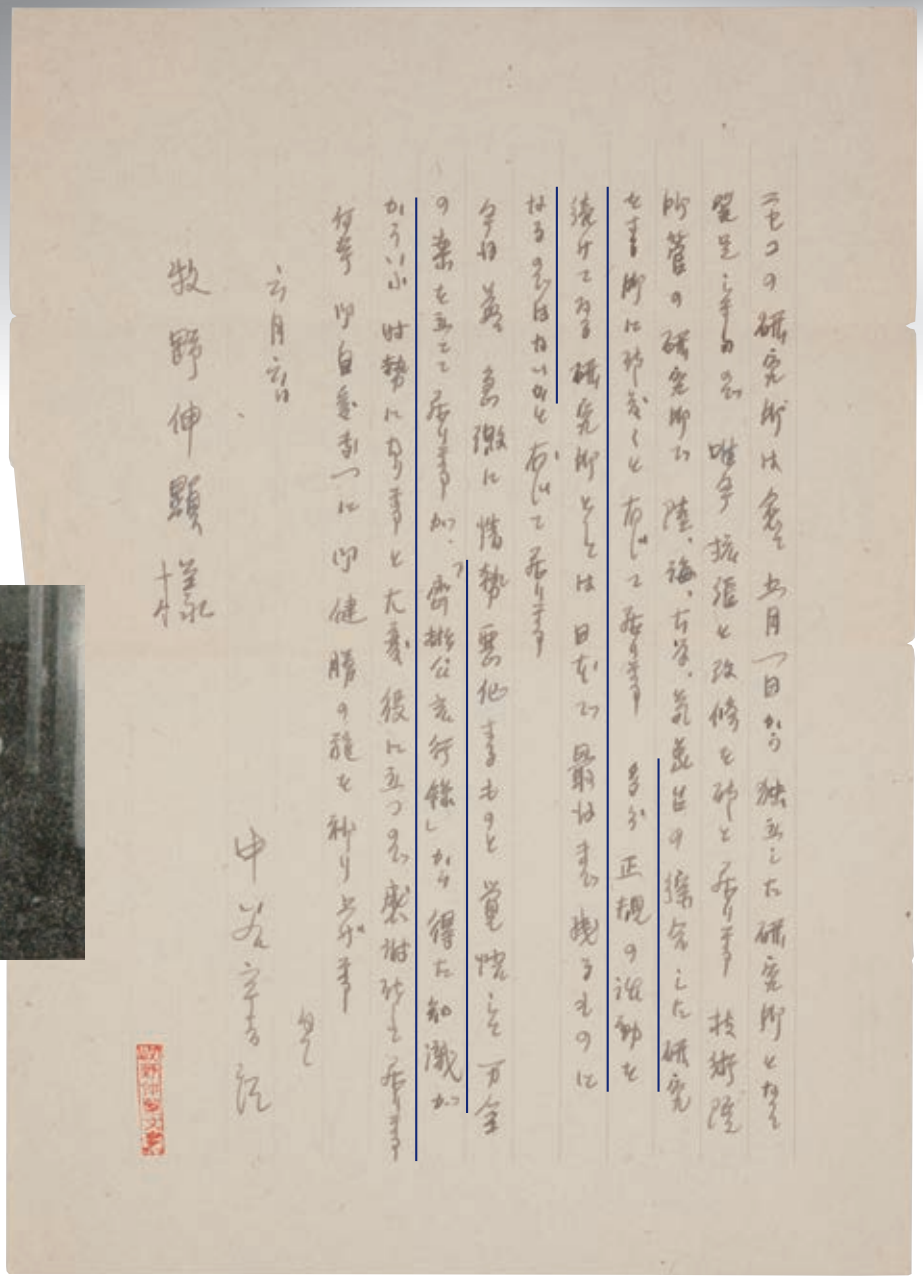
※紺の線は本稿での引用箇所

牧野伸顕（1861-1949）
外交官、政治家。明治から昭和戦前期にかけて内政、外政でともに重きをなした。大久保利通の次男、三島通庸の女婿。長女の雪子は吉田茂夫人。また孫の秋月英子が武見太郎と結婚した。

肖像の出典：『日本貿易協会五十年史』浜田徳太郎 編　日本貿易協会　昭11<請求記号 698-6>

いた中谷を診察した。外観からはもはや助かりそうになかったが、入院して検査することになる。すると武見の検査に関心をもった中谷が「よたよたのからだで[2]」病室から研究室にやってきて、自らの実験物理学の知識に基づいて検査機器の調整のコツを伝授したという。組板ならぬベッドから起き出してきた患者が手伝って、それまでの診断を覆して肝臓ジストマと断定、見事に治癒させたことが機縁となってふたりの親交は始まった。この顛末を記す武見の回想録には、武見が岩波茂雄を通じて知り合った錚錚たる学者たちの名前が出てくる。例えば西田幾多郎、安倍能成、小宮豊隆、仁科芳雄。やがてこの岩波人脈や理化学研究所等での武見の交友関係が、松濤（渋谷区神山町）にあった牧野邸で一種のサロンを形成するようになる。

武見に連れられて中谷が初めて牧野邸を訪れたのは、太平洋戦争が始まって間もない頃だったという。当時80歳を超え政治の表舞台からは身を引いて静かな隠退生活を送っていた牧野は、学者たちの来訪を歓び、彼らが披露する近代科学の話題や新しい思想のことを好んで聞いた。そして牧野も、自ら経験してきた明治以来の様々な出来事を語って訪問者をもてなした。十代初めに父に付き添って岩倉使節団に同行、そのまま留学生として米国



昭和19年5月、銀座「浜作」での会合（前列左から鈴木大拙、牧野伸顕、西田幾多郎。後列左から岩波茂雄、和辻哲郎、武見太郎）

出典：『武見太郎回想録』日本経済新聞社 1968<請求記号 289.1-Ta5192t>

武見太郎（1904-1983）

医師。慶応義塾大学医学部を経て、昭和12（1937）年に理化学研究所の仁科研究室に入る。昭和14（1939）年に銀座の教文館ビルに診療所を開設し、多くの政界・財界の名士の主治医となる。昭和25（1950）年に日本医師会副会長、昭和32（1957）年から同57（1982）年まで同会長を務めた。

に学んだ。帰国の後、再び三等書記生として赴任したロンドンでの公使館勤務を振り出しに、若くして政府の要職を歴任、外務大臣や内大臣も務めて昭和天皇の信頼も厚い。その半生は明治以降の我が国の政治史の歩みに重なっている。それだけに、軍部が急速に政治に影響を及ぼし始めるようになると親英米派の大物と目され、五・一五事件（１９３２年）、二・二六事件（１９３６年）でも命を狙われた。

「さう言へば、いつか牧野さんは「私はどういふ巡り合せが(ママ)、暗殺とは縁があつてね」といふ話をされたことがある。原敬とは東京駅の悲劇の日の朝打合せの用事があり、森有礼の暗殺にも、星亨のそれにも因縁があつた。それから大隈重信遭難の爆音もきかれた由である。[3]」

父親をはじめ身近な人たちを暗殺で失ってきた牧野にとっては、自分を狙った暗殺未遂事件もまた歴史の一コマにすぎないと達観していた様子が窺がえる。

「斉彬公言行録」から得た知識がかういふ時勢になりますと大変役に立つので、感謝致して居ります

手紙の最後の方に出てくる「斉彬公言行録」

は、牧野が序文を付けて出版した『島津斉彬言行録』（岩波文庫）のことである。時あたかも列強諸国からの開国要求に反発する攘夷熱が国じゅうで高まりつつある中、ひとり冷静に時代状況を観察・分析し、対抗手段としての富国強兵を成し遂げるために、敵である西洋の科学の知を精力的に導入して殖産興業を推進しようとした斉彬。

「世間はいはゆる緒戦の戦果に酔つてゐたが、牧野さんは、日本の科学兵器のことを、ひどく心配して居られた。東条等のやり方では、日本の科学技術は進歩するはずがないといふやうなことを、時々もらされた、そして島津斉彬公の治績を賞揚されて、その言行録の出版を考へて居られた。それを政府の要路の人たちに読ませたいといふような気持があつたらしい。[4]」

すでに現実の政治を動かせる立場ではなかった牧野は、合理的知性をもった斉彬のような指導者の登場に望みを託す他ないという心境だったのだろう。「本が出来たら、一冊東条にやって、読んでもらうつもりだ[5]」った、しかし、出版は昭和19（1944）年11月にずれ込み、「やっと出来上ったが、もう間に合わない[6]」…。

『島津斉彬言行録』

幕末の薩摩藩主島津斉彬の治績を、弟・久光が側近の市来四郎に編述させた記録を元に、牧野の序文をつけて出版された。牧野は、「世の国事人事に預る人々の此文献の内容を味ひ処世の参考ともならば幸なり」と書いている。昭和19年11月5日第一刷発行。
https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1058075（モノクロ）

『科學の芽生え』

中谷による、『島津斉彬言行録』のちょうど手引書のような本。斉彬が着手していた殖産興業策の数々の試みを科学者の視点で解説している。そして、「権力と科学とは、普通には両立し得ないものである」、しかし、斉彬のように「為政者が本当によく科学を理解し、そしてその人が実行力を持つてゐた場合には」、研究が進み、それが実用化されて科学が社会に貢献することを強調している。後記の日付は「昭和二〇、四、二五」で、中谷が戦時下の研究生活で様々な矛盾に直面して苦労していたことが想像される。昭和20年9月20日発行。
https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1063034（モノクロ）

書簡の翻刻全文

※句読点を補い、旧字体は新字体に改めた。

拝啓　今回の再度の空襲では渋谷附近にも被害が御座いました由伝聞、神山の方は如何だったかと御心配申し上げます当地では二十六日の空襲以来全く東京の情勢が分らず武見さんの所も教文館、御宅共に戦災を被られたらしく推察痛心致して居ります。何卒（なにとぞ）御被害なく御健勝の程を祈り上げます。申しおくれましたが先夜御伺ひしまして又々御馳走様に相成り、難有く御礼申しあげます。帰札致しまして御懇切な御手紙を頂戴致して居りまして、誠に難有く存じました。早速御礼状差上可処、又々苦小牧飛行場に於て昨年の霧の研究のつづきを開始致しますので、その準備等に追はれ失礼致して居りました。今年は愈々霧を消す実験を始めるので大分御仕掛で御座います。消霧車といふものを一台試作、近く出来上りますが、一寸（ちょっと）黄帝時代の話のやうで自分でも果して巧く晴れるかどうか不安に思って居ります。ニセコの研究所は愈々五月一日から独立した研究所となつて発足しましたので唯今拡張と改修を致して居ります。技術院所管の研究所で陸、海、大学、気象台の綜合した研究をする所に致度（いたした）イ（い）と存じて居ります。多分正規の活動を続けてゐる研究所としては、日本で最後まで残るものになるのではないかと存じて居ります。今後益々急激に情勢悪化するものと覚悟して、万全の案を立てて居りますが、「斉彬公言行録」から得た知識がかういふ時勢になりますと大変役に立つので、感謝致して居ります。何卒御自愛専一に御健勝の程を祈り上げます。

匆々

六月六日　　中谷宇吉郎

牧野伸顕様

（封筒）
東京都渋谷区神山町四五
牧野伸顕様
（朱書転送先）千葉県東葛飾郡柏町字高田九九五
木方敬一方

文中に登場する人物肩書
・岩波茂雄　岩波書店創業者
・小林勇　　編集者、のちに岩波書店会長
・西田幾多郎　哲学者
・安倍能成　哲学者、教育者
・小宮豊隆　独文学者
・仁科芳雄　物理学者
集合写真のみに登場する人物肩書
・鈴木大拙　仏教学者
・和辻哲郎　哲学者

○引用
1「硝子を破る者」『中谷宇吉郎随筆集』樋口敬二 編　岩波書店 1988.9<請求記号 M19-E10>
2,7『武見太郎回想録』日本経済新聞社　1968<請求記号 289.1-Ta5192t>
3,4 中谷宇吉郎「牧野伸顕氏の思出」『文芸春秋』27巻4号 1949.4<請求記号 Z23-10>
5,6「島津斉彬公」『中谷宇吉郎随筆集』樋口敬二 編　岩波書店 1988.9<請求記号 M19-E10>
8 中谷宇吉郎 著『雪』岩波書店　1947<請求記号 451.66-N532y>
○参考文献
『中谷宇吉郎随筆選集　第2巻』朝日新聞社　1966<請求記号 404.9-N532n-a>
中谷宇吉郎雪の科学館友の会 編『中谷宇吉郎ゆかりの人』中谷宇吉郎雪の科学館友の会　2009.3<請求記号 GK185-L76>
杉山滋郎 著『中谷宇吉郎　人の役に立つ研究をせよ』ミネルヴァ書房　2015.7<請求記号 GK185-L203>
東晃 著『雪と氷の科学者・中谷宇吉郎』北海道大学図書刊行会 1997.12<請求記号 GK94-G11>

封筒の表裏。封筒下部には検閲済のシールが。

戦時下という深い霧の中にも似た状況にあって、幕末この国の一隅に、透徹した知性を持つ政治家が点した合理主義の灯が確かにあったことを伝えようとした牧野。その語りを側近く聞いて、悪化の一途をたどる戦況を意識しながらも淡々と研究を続けていた中谷。「消霧車」の完成を目指しながら、もはや風前の灯となっていた合理主義を、日々の研究の実践で守り抜こうという秘めたる決意があったのではないだろうか。

封筒表には、焼け出された牧野が疎開した千葉・柏の転送先が朱書きされている。この地に先に居を移していた武見が、敗戦間際のこの時期の牧野の様子を次のように書き残している。

「疎開中のことで最も印象深いのは、牧野伯が参内して帰ってこられるたびに「なんとか終戦の方法はないものか」と非常に心配して話しておられたことである。……ついに広島に原爆が落ちた時、私はそれが原爆であることを牧野伯に知らせた。伯は「原爆を開発している仁科君には気の毒だが、これを機会に講和を結ばなければ国がなくなってしまう」といった。そして……牧野伯は参内して陛下に原子爆弾であることを奏上したのであった。[7]」

牧野伸顕は昭和24（1949）年1月、この地で89年の生涯を閉じた。

〝雪の結晶は、天から送られた手紙である〟[8]

これは、雪の結晶の様々な形状はそれが生成された上空の気象条件によって決まるという科学的事実を、読む者に詩情を感じさせずにはおかない言葉で表現した中谷の名言だ。中谷は雪の美の中に秘められた科学を見出し、それを詩の言葉で私たちに伝えた。では、この書簡によって、年齢や境遇を超えた科学者と老政治家の温かな交友があったことを知り、さらにその行間に隠れた我が国の近代の歴史で繰り返された苦い経験に気づいた私たちは、それを次代に伝える言葉を中谷のように紡ぎだせるだろうか。

今日、霧は出ていないだろうか。

本の森を歩く　第二十二回

伝説の講釈師、馬場文耕とその著作

川本　勉

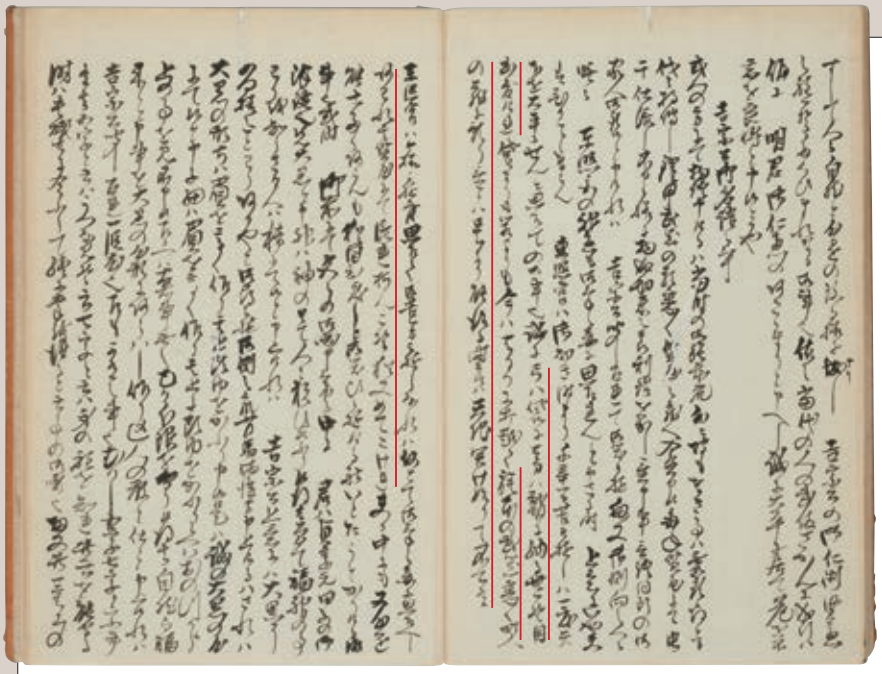
講談は落語などと同様に舌耕芸といわれ、寄席演芸の一つである。江戸初期の太平記読みに始まり、当初は軍談が主流であったが、話が多様化し発展、明治時代に最盛期を迎えた。江戸期以前には講釈とも呼ばれ、明治以降、講談という呼び方が定着した。

ここで取り上げる馬場文耕（馬文耕とも、一七一八‐五八）は、世話物講談[1]の分野を開拓し近世講談の祖といわれる。平賀源内の小説『風流志道軒伝』でも知られる深井志道軒（？‐一七六五）は、ほぼ同時代の講釈師（参考A）。伊予の生まれで、本姓は中井氏、通称を左馬次、左司馬、文助、文右衛門といった。出家したが還俗し、江戸で易術をもって生計を立てたとも、幕臣（御徒）で馬術を教えていたともいわれる。芝南、新材木町、松島町に住し、中川宗瑞（白兎園）に俳諧を学んだ。門弟には、講談の興行に功績を残した森川馬谷や、歌舞伎役者の中村喜代三郎などがいた。宝暦四（一七五四）年頃から幕閣や各藩の情報を、随所に出入りしていた貸本屋などを通して収集し、実録風小説（話題の事件を虚実ないまぜに語ったもの）などに仕立て、講釈師として活躍、同八（一七五八）年、美濃郡上藩の百姓一揆を題材にした講釈を行い、『平かな森の雫』[2]という書き本（内容に差し障りがあり、出版できない筆写本。貸本屋がかかわり、内密に愛読された）にして売り捌いた科により、町中引廻しの上、小塚原刑場で獄門に処せられ、[3]浅草涼源寺に葬られた。江戸時代に筆禍事件で極刑に処せられたのは文耕だけで、著作以外に残された記録はほとんどなく、謎の多い講釈師、作家といわれる。

わずか五年余りの間に書き残された文耕の著作は十数点で、すべて版行されず、書き本、その写本として伝わった。刊行許可の得られない内容であったため、貸本屋で写本を貸したり売ったりする形で流布した。その内容は、幕政に関するもの、実録風小説、街談巷説の類の三つに大別されるが、同内容の話が複数の著作に収録されているのも彼の著作の特徴である。ここでは当館所蔵の文耕の著作（写本）を通して、時の為政者や世相、風俗を、貴賤を問わず辛辣に批評し人気を博した講釈師、馬場文耕の実像に迫ってみたい。

参考A　志道軒による講釈の様子。（石川豊信 画）
この時代、まだ寄席はなく、講釈の場所は一定ではなかった。

明君享保録



「明君享保録」［馬場文耕 著］ 写 『中古叢書別本』31 の内 <請求記号 わ 081-8>

20 丁裏～21 丁裏。「弓は袋に太刀は鞘に納る世こそ目出度けれ…旗本の武器悉く町人の蔵に預り置とハ是より能治る時節ハ天地開け始りて不可有…あわれ其質屋にて流れ朽んこそ猶又めてたけれ…」と平和が長く続き、使われなくなった武器が質屋にあるということはめでたいことだと記す。

八代将軍吉宗（参考B）の言行を誉め讃えた逸話集で、序には「東照大神君より御八世 吉宗公の御徳行誠に聖に宿り…此君御一生の御徳様を記して後代に残すもの也」とある。

明君吉宗の言行とは、たとえば以下のようなもの。①吉宗は、大名たちの往来供廻りは、決して荒々しく威張って道いっぱいに歩行してはならない、両脇を明け、諸人の煩いにならぬように心掛けよ、天下の往還を我が物とする大名は、天道を知らざる不仁者で、供を割って入ってきたものを切り捨てるのは、甚だ不届きだという。②西番所勤務の中坊鍋五郎は殊の外、武備の手入れよく鉄砲を錆びさせない、それを知った吉宗は御成りの途中、急に西番所の鉄砲を取り寄せ、ためしに打たせたところ、玉はよく走り吉宗もこの上なく褒め称えた。これを聞いた他の番所役人たちは、不意の御用で恥をかかないように、武器の手入れを入念にするようになったという。この一件は本書を典拠として『徳川實紀』にも引用[4]されている。③また吉宗は、幕臣たちが先祖伝来の鎧、甲冑などの武器類を悉く質屋に入れ置き、毎年質屋で虫干させて、切米（給金）の時に、利子を渡しているのは言語道断という話を聞き、弓は袋に、太刀は鞘に納る世こそめでたい、武器を町人の蔵に預けるとは、長く平和が続いているからで、質屋に武器が流れて、朽ち果てることこそなおめでたい（上画像）という。④さらに吉宗は、武士には常に心得ておくべき三つの局面がある、第一に理由もなくふっかけられる喧嘩、第二に雷地震、第三に火事、この三つは不意に起こるので、普段からその対処法を考え、慌てないように心掛けよという。

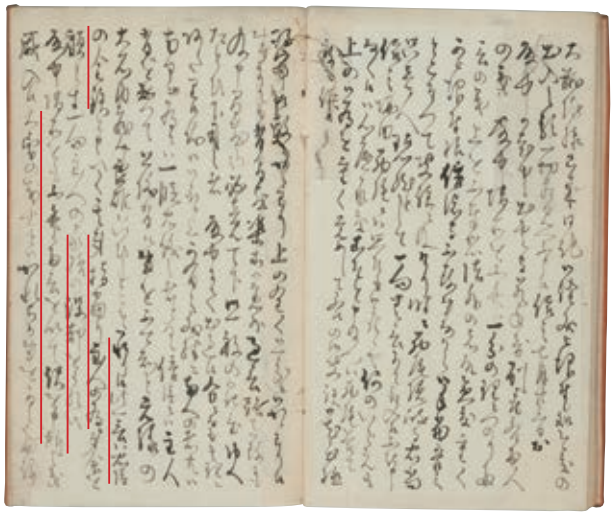
本書は、吉宗を寛容なすぐれた統率者で、礼儀正しく、初代将軍家康を敬い、家臣の心情を理解し、松平乗邑（のりさと）や大岡忠相（ただすけ）といったすぐれた人材を登用した、類稀な徳のある為政者として描きその治世を礼賛している。文耕が書いたこの吉宗の徳行が、後の大岡忠相の名裁きを題材とした、講談でもお馴染みの「大岡政談」に影響を与えた。

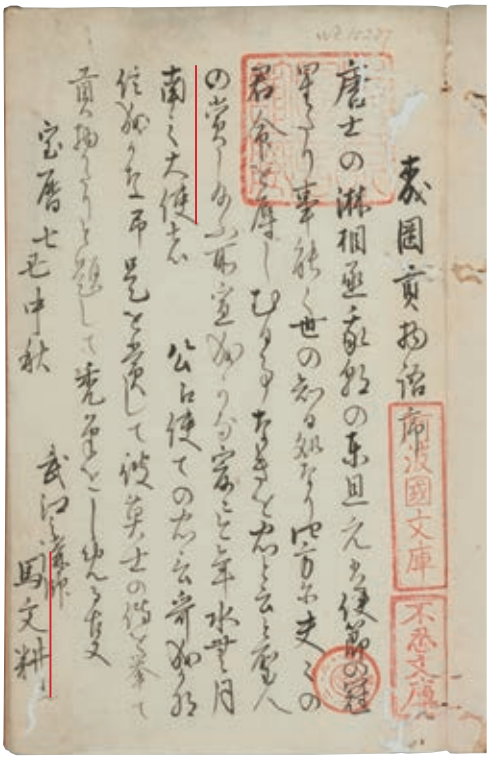
文耕の著作中、貸本屋等を通じて最も広く流布し、多くの人々に読まれ親しまれた著作で、五十部余りの写本が現存する。敬愛した吉宗が将軍を辞した後、文耕は幕政内の動向、大奥などの裏事情を、『宝内密秘（ほうへいみつがひ）登津（とつ）』や『頃日文耕録』（『頃日全書』）に書き留め、町奉行依田和泉守の裁きや、老中松平右近将監武元（のちに文耕の極刑を指図）を賞賛する一方で、九代将軍家重の側近、大岡出雲守忠光らを批判し、町奉行所の厳しい目にさらされることとなった。

参考B　徳川吉宗肖像

森岡貢物語（もりおかみつぎものがたり）

『森岡貢物語』馬場文耕 著　明和８（1771）
写＜請求記号 147-141＞





（右）馬文耕による巻頭の序。「南之大使」（南部藩の貢物献上の使）の世にも珍しい忠義ぶりを拙い筆でしたためた旨が記されている。
（下）７丁裏～８丁表。西尾隠岐守忠尚は「主人の為ニ身命を顧ミす…家格の没却をうれひ…多言を以て訳を申所…大勇の義士とハかれらか事を可申也」と尾崎富右衛門をたたえた。

幕府を憚ってか、「盛岡」（南部藩）を「森岡」と表記する。幕府老中への献物（貢物、南部の名産かたくり等）の授受をめぐる騒動物語である。発端は南部藩九代藩主信濃守利雄（としかつ）が、日光山本坊普請無事竣工の礼として、老中の堀田相模守正亮（まさすけ）へ、江戸商人より購入した後藤祐乗（ゆうじょう）作の天下に一つしかない刀を、南部家伝来のものと嘘をついて贈ったことにある。この刀は、実は将軍より御小姓の高井兵部に下賜された後、売りに出されたものだと判明したため、老中の恨みをかい、献物の際、恒例の格式だった老中面謁がかなわなくなってしまった。

これを慷慨した家臣（留守居役）の尾崎富右衛門は、宝暦七（一七五七）年、献物の使者として江戸城に出頭、老中が多忙を理由に面謁を御奏者番に代わらせると、老中に謁するまでは退出せずと、殿中に響き渡るような大声でののしり、御納戸構に居座った。[5] 幕閣の多くは富右衛門を罰し、藩主利雄の罪も問おうとしたが、西尾隠岐守忠尚（ただなお）が、身命を顧みない大勇の義士であると褒めたたえ反論し、不問に付された[6]（上画像）。これにより南部藩は、旧例通り献物時の老中面謁が得られるようになった。

主君に身を賭して尽くし、その格式を守るために孤軍奮闘した富右衛門の忠義ぶりは、今日でも人気がある元禄の赤穂浪士（忠臣蔵）の忠義にも通じる。当時の聴衆を喜ばせた、出世美談、名君良将、御家騒動などを題材にした御記録物（時代物）講談に類する話で、同類の著作に、秋田佐竹藩の御家騒動を記した『秋田杉直（あきたすぎなおし）物語』がある。また、『頃日文耕録』（『頃日全書』）にも土佐藩の鰹節献上をめぐるトラブルについて、忠臣仙石八右衛門の見事な釈明ぶりが紹介されていて、盛岡の献物と同様、幕閣の理不尽な対応を批判するのは、文耕の真骨頂ともいえた。

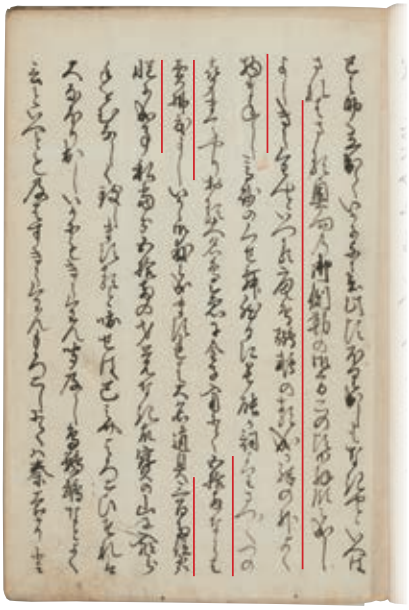
世間御旗本容気（かたぎ）

参考Ｄ　「王子稲荷」『東都三十六景』の内。（広重 画）

参考Ｃ　博物画の名手、毛利梅園が描いた九官鳥。

江戸初期に始まった、井原西鶴などに代表される浮世草子の影響を強く受けた、実録風小説といえる著作で、宝暦（一七五一-一七六四）頃の頽廃した幕臣（旗本、御家人）たちの暮らしぶりを、生々しく記している。以下に、その一部を紹介する。

笹井巳之助とその弟の右内は、屋敷を鳥部屋にして、鴛鴦（おしどり）、鴨、家鴨（あひる）、雉などさまざまな鳥の飼育に昼夜こころを砕き、切米の他に、育てた鳥を売って裕福に暮らしていた。ある時、鳥屋の平字屋与兵衛から、物まねを得意とする珍鳥の九官鳥（参考C）を、三百両で大名家に売れるといわれ、五十両で入手（右下画像）。友人たちを招き九官鳥を披露すると、夜更けまで宴会となり、役者の声色（こわいろ）や講釈師の志道軒をまねて、「ととんとん」と拍子をとって大騒ぎ。やがて、大名家に売りに出された九官鳥は、貴人が好む雅な謡曲などはまったく覚えず、下品な役者の声色や志道軒のまねばかりすると返却され一銭にもならず。そこで見世物芝居に出して元金を取り返そうとしたが、大衆の見世物にされることを恥じたのか、九官鳥は餌を食わずに死んでしまい、五十両の大損となったという、金に目が眩んだ幕臣の商売失敗話。



『世間御旗本容気 5巻』升瓢（馬場文耕）著　写＜請求記号 116-47＞

一之巻 3丁裏～4丁表。「…きうくわんといへる唐鳥鸚鵡の類成か殊の外よく物まねし…五拾両ならは賣拂度よし…三百両位にハ慥に成事」と鳥屋に言われ、巳之介はたいへんな掘り出し物と喜んで九官鳥を購入し、大名家に高く売りつけようとたくらんだ。

新御番[7]を勤め、高四百石取りの佐藤甚六郎は、少々しまりがなく「ぬけ六」と仇名され、仲間から笑われていた。甚六郎は何とか組頭になって仲間を見返してやろうと、神力を頼み王子稲荷（参考D）に三年間、毎月、午の日ごとに参詣。ある日、参詣の途中、見知らぬ女に夫を助けてくれと泣きつかれた後、大勢の農民が畑を荒らす悪狐を柴漬（ふしづ）け（簀巻きにして水中に投げ入れること）にするため、竹簀（たけす）に巻いて運んでいるのに出くわす。先ほど出会った女はきっと女狐で、稲荷の使い、簀巻（すまき）の悪狐の女房かと思った甚六郎は、しぶる農民たちを説得させるため、庄屋に大金五両を渡し悪狐を買い取る。助けた悪狐に対し甚六郎は、夫婦むつまじくして出世し、稲荷の神体となり我の行く末を見守り、立身出世の大願をかなえよ、といって簀巻をほどくと、なんと悪狐ではなく、赤色の犬が躍り出てほえかかってきたので、急いで逃げ去ったという、出世欲に憑（と）りつかれた信心深い幕臣の間抜け話。

その他に、酒や博打で身上を持ち崩した若い御家人の無心話、不正な養子縁組話、奥方の密通、欠落（かけおち）話、偽物の名品（茶碗）を高額でつかまされた茶人の息子の復讐話などが収録されている。当時の幕臣たちの赤裸々な姿からは、今日にも通じる人間の欲深さが窺える。そこには、将軍吉宗没後、綱紀が緩み、太平の世とはいえ、厳しい暮らし向きの中、自分たちの生活を守りつつ、豊かさを追求していた時代背景も垣間見える。不埒な、あるいは不遇な幕臣たちのうわさなど巷の情報は、貸本屋を通じて文耕にもたらされ、聴衆を喜ばせる講釈のネタともなっていた。

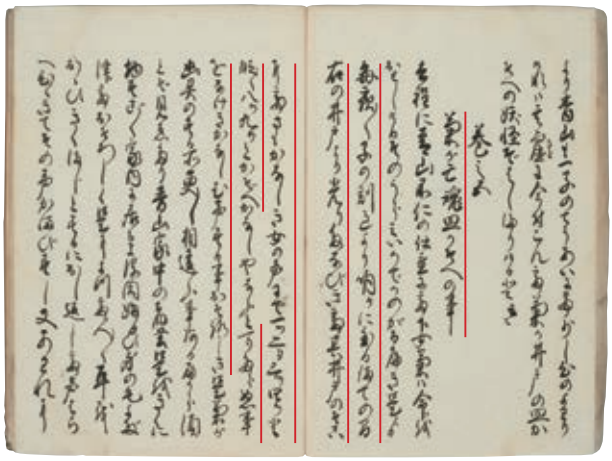
皿屋舗弁疑録

菊の亡霊が夜な夜な皿の数を数える、皿屋敷物といわれる怪談話は、播州姫路が舞台の『播州皿屋敷』と、江戸番町が舞台の『番町皿屋敷』がよく知られる。

一八世紀初めにはすでに浮世草子に類話があり、歌舞伎や浄瑠璃でも『播州皿屋敷』を題材とした演目が上演されていたが、宝暦八（一七五八）年、舞台を播州から江戸の番町に書き換え、講談として『番町皿屋敷』を最初にまとめたのが馬場文耕であった。そこには、当時流行の「百物語」と称した一連の怪談物や、実録風小説の影響も窺える。

文耕はまず序文にて、六つ七つの頃、亡父から番町の皿屋舗の話をたびたび聞いた旨を記す。その内容は以下の通り。旗本の青山主膳は、牛込御門内五番町にあった天樹院（千姫、将軍家光の姉）の屋敷跡地を下賜され盗賊改の役につく。冷酷非道な主膳は、武芸に長けた盗賊向崎甚内（こうさきじんない）を捕縛し処刑後、身よりのない甚内の娘、菊を奴（下女）として奉公させ、妻と共にいじめぬく。主膳自慢の十枚揃えの皿の一枚を菊が割ってしまうと、菊の中指を切り落とすなどのむごい折檻が繰り返され、菊はついに井戸に投身。青山家をたたり毎夜化けてでると（下画像、参考E）、家臣たちは恐れをなして逃げ出し、やがて青山家は没落。後に幕府の命を受けた伝通院の了誉上人によって、菊の怨念が鎮められるというもの。

実際には青山主膳なる火付盗賊改は存在せず、史実と異なる点も見られるが、後に小説（合巻）、戯曲、落語でも取り上げられ人気を博し、今日では誰もが知る怪談話の定番となっていった。なお、文耕の怪談物の著作には、奇瑞（めでたいことの前ぶれとなる不思議なできごと、吉兆）による出世譚、鬼子や猫又といった化物の退治話、狐による化かされ話など、主に幕臣の間に起った怪奇談をまとめた『大和怪談頃日全書』もある。



『皿屋舗弁疑録 5巻』馬場文耕 著　弘化3（1846）写＜請求記号 116-53＞

巻之五 30丁裏～31丁表。「菊ガ亡魂皿カそへの事…毎夜毎夜子の刻過より明ヶに至るまでの間右の井戸より光りたなびきて其井戸のそこにてさもかなしき女の声にて一ッ二ッ三ッ四ッと段々八ッ九ッとかぞへ…一ッたらぬ事をなけきかなしむ声する事おそろしき…」と記されている。

参考E 「皿やしき お菊乃霊」『新形三十六怪撰』の内。（大蘇芳年 画）

当代江戸百化物（ひゃくばけもの）

参考F　志道軒肖像。

『当代江都百化物』馬場文耕 著
写＜請求記号 229-176＞

27丁裏～28丁表。文耕は同じ講釈師の志道軒を「彼カ云ふ所ハ外道の術に似たり甚以て世を迷し父子兄弟の情を破り大悪人に均して罪人なり」と厳しく非難している。

宝暦八（一七五八）年頃、江戸市中で庶民によく知られた人物たちの裏の顔を明らかにし、世を化かす化け物と親しみも込めながら文耕が批判、批評したもの。序には「人にして人を化かすものを取り集め数は百には足らねとも題号として爰に記すのみ」とあり、二六人の化け物に対し文耕が、毒舌をあびせている。以下にその一部を紹介したい。

①新発田（しばた）藩主溝口直温（みぞぐちなおあつ）が、歌舞伎役者の瀬川菊之丞を寵愛し、大金を貢いでいる様子を化け物のごとしと批判。②のちに文耕に極刑を申し付けた、南町奉行土屋越前守正方（まさかた）については、温和で取り調べも厳しくなく、名奉行大岡越前守に似ているようだが、実は髭を抜きながらいいかげんに訴えを聞き、不真面目で器量も小さく、江戸中をたぶらかしていると批判。③船持ちの上総屋三衛門が、江戸中の貸船業者をもうけさせようと、両国河原で仙台藩主がお決まりの花火を催すというデマを流したのは、誠によき化かしようと批評。④美少年剣士の清水宗次郎が父、惣左衛門をだまし討ちにした敵、篠田郡右衛門を高田馬場で討つという噂が広まり、見物人が殺到。実はこの敵討ち話は巾着切（きんちゃく）（すり）たちによるでまかせで、見物人の多くが、財布、印籠、小刀などを盗まれた笑えぬ化かされ話と批判。⑤英一蝶（はなぶさいっちょう）の門人の一蜂（いっぽう）は画の達人だが、新吉原で頼まれた画を描きながら、八十一個の饅頭を残らずたいらげたり、西本願寺門主の前で、描いた画のお礼に出された蕎麦を食べ、喉に詰まらせ大騒ぎを起こしたりと、食い意地のはった大化け者と批評。⑥市川海老蔵に並ぶ人気者の講釈師、志道軒（参考F）は偽坊主で、その言うところは、甚だ拙く邪見ばかり、大悪人に等しく不届きの外道である（上画像）と酷評するなど、当時の江戸市中で、何が噂になり、評判であったか、現代であれば週刊誌のゴシップ記事にあたるような裏事情が探れてとても興味深い。こうした民衆を引き付けた下世話なネタが、文耕の講釈の題材にもなりその人気を支えていた。

愚痴拾遺物語

参考H　当時流行していたふくめん頭巾。右から「目計頭巾」（めばかりずきん）「竹田頭巾」「気保頭巾」（さままずきん）

参考G　糸車（中結祇園守）の紋所

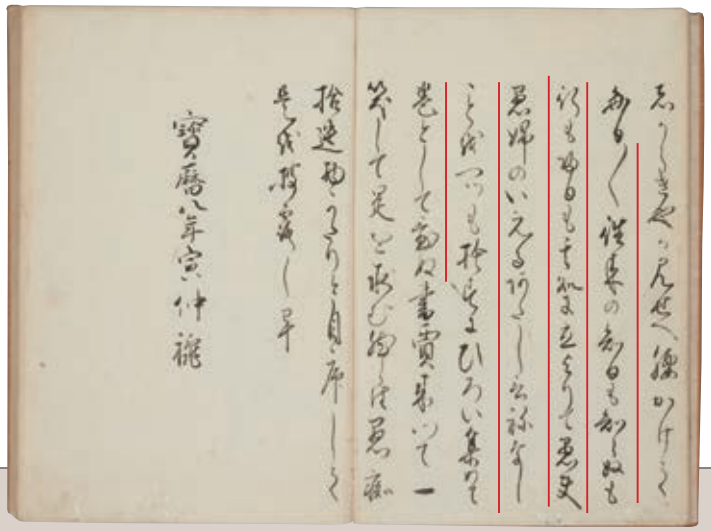
文耕は自序で、書名は中世の説話集『宇治拾遺物語』に擬したもので、毎日、新橋のいきつけの店に腰かけて、道行く無知な男女の根拠のない作り事、つまらないことなどを拾い集めて一冊にしたと記す（下画像）。その内容は宝暦の頃の風俗、流行語を取り上げそれを検証し、言っても仕方のない庶民の愚かさを嘆いたものである。

写本が数点現存するが、同じ内容の写本とは思えないほど、字句の異同が多く、文章も甚だ違っている。これは文耕がたびたび文章を変えた写本を作り、それらが貸本屋の手に渡り広がっていたからである。文耕による愚痴（嘆き）のいくつかは以下の通り。

先ずは風俗について。①今の人は紋所（家紋）が不恰好といっては、その紋所を崩し勝手に変えてしまう。たとえば、ある女房は親や夫の定紋ではない糸車の紋所（参考G）を、ただ美しいからと小袖に縫い付けたが、この紋所が御禁制のキリシタンの紋所であることを知ると、大いに驚き身震いして恐れ、小袖を焼き捨てた。この女房の無知、愚かさを嘆く。②昔の女は人に顔を顕わさず、しのびやかなところに情もあったが、今の世はぬきえりをして、白い肌を見せて自慢げに歩くみだらな女が多いと嘆く。③近年、ふくめん頭巾（参考H）という目ばかりだして、親兄弟でも誰だか見分けがつかない、悪しき頭巾がはやっている。遊郭などに忍び通う際に顔を隠すための頭巾だが、武家もこの頭巾で出勤し、桜田御門を新吉原の大門と同様に通っていることを嘆く。

また、流行語についてその元の意味を知らないことを嘆く。「おくすりかけた」とは人を怒らせたり、悦ばせたりすることをいうが、元は牢屋で、扱いにくい罪人を毒殺する、毒薬をかけるからきた不吉な言葉。「やきもち」とは女の悋気、しっとのことだが、これは焼餅からきていて、焼餅を食べると胸が焼けるほど熱くなり、その焼ける思いを女心のしっと深さにたとえた言葉。

文耕は絶えず人々を観察し、民衆の立場、視点から風俗、言葉に関する貴重な記録を今日に残した。鋭い観察力とその博識は、彼の講釈に説得力を与え、多くの民衆に支持される要因でもあった。



『愚痴拾遺物語』［馬場文耕 著］明和2（1765）写　式亭三馬旧蔵 <請求記号 229-298>

序1丁裏～2丁表。「…毎日往来の知るも知らぬも行も帰るも其処に立よりて愚夫愚婦のいえるあたし言ねなしことを一ツも捨すにひろい集めて巻として置ぬ」と執筆の経緯を記す。

文耕の著作とその講釈には、宝暦頃の幕政や大名家の内情、幕臣や庶民の暮らしぶりが色濃く反映されている。それらは今の新聞、雑誌などに見られる特ダネや三面記事ネタにも通じるもので、その毒舌をもって講釈の場で語られ人気を博していた。文耕の情報収集、執筆には貸本屋が深くかかわり、彼の処刑と同時に関係した貸本屋たちも所払の刑に処せられた。貸本屋が今でいう記者のようにネタ集めに奔走し、その集めた情報が文耕の講釈、著作をささえていた。

幕閣の裏情報から庶民の下ネタまで、冷徹、辛辣な目を以って書き残した講釈ネタに通じるその著作からは、当時の人々の生きざまが垣間見えて実に楽しい。また、猥雑な講話をもって多くの民衆を引き付け、熱狂的なファンが多くいた同じ講釈師の志道軒を、かなり意識していたことはとても興味深い。講談の歴史に大きな足跡を残した志道軒と馬場文耕、その関係が文耕の著作を通じて多少たりとも窺えるのは重要である。

●参考図版

A: 志道軒による講釈の様子。（石川豊信 画）『浮世絵大家集成 第四巻』大鳳閣書房　1931-1934　<請求記号 721.8-Ta164u >

B: 徳川吉宗肖像『大日本名家肖像集』
https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1875517/73

C:「秦吉了 サルカ キウガン」『梅園禽譜』の内。博物画の名手、毛利梅園が描いた九官鳥。よくしゃべること鸚鵡に勝り、黒色で両眉は黄色…異国より来る旨の記載がある。
https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1286915/67

D:「王子稲荷」『東都三十六景』の内。（広重 画）
https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1303581

E:「皿やしき お菊乃霊」『新形三十六怪撰』の内。芳年 [画]　明治 35 年
https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1306503

F:「志道軒」『畸人百人一首』緑亭川柳 作［他］　嘉永 5 年
「深井志道軒ハ心学やうの講師にて…其名世界に聞え」などと記されている。志道軒は僧侶あがりの講釈師で、豊富な知識をもってユーモラスに講じ、狂講といわれた鋭い風刺を効かせた巧みな話で聴衆を魅了した。
https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2538716/58

G: 糸車 (中結祇園守) の紋所。『日本紋章学』沼田頼輔 著　1926
キリシタン大名の小西行長が使用したとされる。
https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1879378/495

H:「目計頭巾」『巷街贅説』巻之 1(『近世風俗見聞集』第 4　国書刊行会 編　大正 1-2)
https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/949628/14
「竹田頭巾」「気侭頭巾」『守貞謾稿』巻 15　喜多川季荘 編
https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2592403/21
https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2592403/19

●注

（注 1）世話物講談とは、庶民の恋愛、義理人情などを取り上げた読み物で、泥棒物、力士物、怪談物、侠客物などが含まれる。

（注 2）江戸幕府編纂の史書『徳川實紀』（宝暦 8 年 12 月 25 日）にも、群上藩の百姓一揆について『森の雫』が引用資料として挙げられているが、同書の所在は不明。

（注 3）宝暦 8（1758）年 12 月 25 日、老中松平右近将監武元の指図により、南町奉行土屋越前守正方掛にて文耕に町中引き回しの上、獄門という判決が申し渡された（『馬場文耕集』309 頁）。

（注 4）『徳川實紀』（第 9 篇、「有徳院殿御實紀」附録 巻 4、「諸門番所武器手入奨諭」の項）には、「…鍋五郎が平常武備に怠らざるを賞せられ。…これを傳へ聞所々の番衛。にはかに武具を修治して。備急の心がまへせしといへり」とあり、『明君享保録』が引用書として挙げられている。

（注 5）『徳川實紀』（宝暦 7 年 6 月 13 日）に、尾崎富右衛門が家格の下がる事を嘆き、殿中に居座った旨の記載がある。

（注 6）『徳川實紀』（宝暦 10 年 4 月 26 日）は、西尾隠岐守忠尚の逸事として、尾崎富右衛門の忠義を評価し、押し込め（門を閉じ蟄居させ、外出を禁じること）のみの刑罰に処した旨を記しているが、『史籍集覧』や『好古堂漫筆』収載の「森岡貢物語」は、富右衛門の忠義をたたえたのは西尾隠岐守ではなく、松平右近将監と記している。

（注 7）将軍の警護に当たる役人で、江戸城内で交替勤務。将軍外出の際は行列の先駆けを勤めた。

●参考文献

・「明君享保録」「世間御旗本容気」馬場文耕 著　『馬場文耕集』（岡田哲 校訂 国書刊行会 1987）の内
< 請求記号 KG212-E2>
・「森岡貢物語」馬場文耕 著『史籍集覧　第一一冊』（近藤瓶城 [原編] 新訂増補 角田文衛、五来重 編 臨川書店 1967）の内
< 請求記号 GB22-1>
・「徳川實紀 第九編」新装版　『國史大系 第四六巻』新訂増補 < 請求記号 GB391-G41>
・「『世間御旗本容気』の背景」高橋圭一 著『国語国文』54 巻 9 号 1985 年 9 月　21 頁～ 36 頁 < 請求記号 Z13-345>
・「皿屋舗弁疑録」馬場文耕 著　『近世実録全書』第 1 巻（早稲田大学出版部 1929）の内 < 請求記号 913.56-Ki249-w>
・「当代江戸百化物」馬場文耕 著『新日本古典文学大系』97（佐竹昭広 [ほか] 編 岩波書店 2000）の内 < 請求記号 KH2-E3>
・「愚痴拾遺物語」馬場文耕 著『未刊随筆百種』第 9 巻（三田村鳶魚 編 中央公論社 1977）の内 < 請求記号 KG294-14>

国立国会図書館で働いてます

no・3

お仕事の内容と、具体的な流れを教えてください。

調査及び立法考査局（「調査局」）には、専門分野ごとの室・課があり、国会議員の活動をサポートしています。私は社会労働課に所属していて、年金など社会保障分野の調査を担当しています。

調査局の最も重要な役割の一つは、国会議員からの調査依頼に回答することです。国会議員からの調査依頼は、電話やFAX、イントラネット経由で、調査受付の窓口である国会レファレンス課に届きます。それが社会労働課、課の中の担当へ、と回付されてきます。

自分が担当になった依頼は、まず、どの資料・ツールを見れば回答の糸口が見つかるかを考え、所蔵資料や各種データベース、インターネットなどを使って調査をします。

調査の結果については、そのまま資料を提供することもあれば、サマリーや報告書を作成したり、議員に直接説明しに行ったりすることもあります。

見当をつけるときには、あ、これでいける！　と思うことが多いですか？

少し慣れが必要ですね。私は社会労働課では3年目なので、まだまだ、何を聞かれてもOKというわけにはいきません。

他の部署だと2、3年で異動することも多いですが、調査局の仕事は3年目でまだまだ？

守備範囲が広いのと、奥が深いんですね。外国のこと、細かい制度の話など、調べたこともないし、調べても出てくるかどうかわからない、というのもあって、依頼のたびに勉強させてもらっています。

かなり専門的ですよね。

ある程度の知識と経験はいりますが、研究者のように自分で説を立てるのではなく、基本的には既存の資料を基に調査をしています。

短時間で回答を求められることも多いですか？

そうですね。「超特急で！」とか。「本日中」「明日まで」も多いです。時間に応じて、できる範囲で回答します。急ぎの場合は文献のコピーだけとか、少し時間があればサマリーを、とか。多いときは一日に何件も依頼をかかえて、そういう日はちょっと大変です。

聞き手：総務課編集係

桐原 康栄　調査及び立法考査局 社会労働課

平成11（1999）年4月　入館　総務課法規係
平成13（2001）年4月　政治議会課
平成18（2006）年4月　関西館総務課人事厚生係
平成21（2009）年4月　支部図書館・協力課協力係
平成22（2010）年4月　政治議会課
平成27（2015）年4月　調査企画課編集係
平成29（2017）年7月　社会労働課

今まで受けた中で印象深い依頼があったら教えてください。

用語の起源を聞かれることがあります。いつからこういうことが言われ出したかとか、そういうのって、過去の資料をずっと遡っていかないとわからない場合が多いんです。いろんな古い資料、書庫の奥にある本などをめくってめくって、散々調べて、ようやくたどり着いた回答が国会の審議で使われたこともありました。

それはやりがいを感じますね。

すごくうれしかったです。特に、この図書館ならではの調査ができたので。

調査局では、国会議員からの調査依頼に回答する以外にも、国会審議で取り上げられそうなテーマについて調査を行って、その成果をレポートとして刊行していますが、そちらはどうですか。

刊行物の媒体はいくつかありますが、10ページ前後の『調査と情報―ISSUE BRIEF―』シリーズは、調査依頼の回答にもよく使います。私が初めて執筆したのは、政治議会課在籍時に刊行した「欧米主要国の政治資金制度」でしたが、当時はちょうどお腹が大きい時期で、入稿の翌日から産休でした（笑）。

私は筆が遅いので、依頼の合間をぬって1年に1本書けるかどうか。自力で全部書くというよりは、過去の調査の経験や、先輩、管理職、いろんな方の助言があって初めて刊行できるものだと思っています。

調査のやり方で大事にしていることはありますか?

何よりも正確さと、中立であること。あとは、図書館らしさをなるべく出したいです。ネットで簡単に探せる記事よりは所蔵資料を使った調査ができるといいなと。あと、外国のことに強いのが調査局の強みと言われていますので、それは頑張らないと、と思っています。

政治議会課には2回配属されたわけですが、年代によって調査の仕方や依頼内容の傾向が違ったりはしましたか?

インターネット自体は最初の配属のときからありました。ただ、新聞のデータベースが今ほど充実していなくて、担当ごとに収集している新聞の切り抜き資料がすごく重要でした。記事を赤鉛筆で囲んで、切って、仕分けして、糊で貼ってファイルしていました。

今では議員事務所からもイントラネット経由で当館のデータベースにアクセスして検索ができるようになりましたが、それでも、新聞、雑誌記事の調査依頼はけっこう来ます。検索の仕方によって、記事がたくさんヒットしすぎちゃったり、逆にうまく出てこなかったりするんだと思います。そういう意味では、ネットの時代でも、調査員、図書館員の検索・調査能力が求められていると感じます。

◆◆◆

新人のときは、総務課法規係に配属されたんですね。一言一句、法規を作ったり、審査したり、大変な仕事ですよね。

図書館の組織や業務に関する法規にふれることで、館全体で何をやっているか、というのがわかったのはよかったです。最初は苦労したけど、法律的な配字や用語も勉強したので、調査局で外国の法律を翻訳するときなどに役に立っています。「及び」「並びに」、「又は」「若しくは」とか。

もともと専門は法律だったんですか?

労働法です。今は社会保障担当なので、似てるけど違う（笑）。

そもそも、どうして国立国会図書館を志望したのですか?

公務員志望だったので調べているうちに、初めて調査局の業務を知って、「これがやりたい!」と。当時はホームページに過去問などの情報が出ている時代ではなく、訪問できるような大学のOB・OGもいなかったので、1回、練習で受けたんです。大学院1年生のときに。

そこまで!?

二次試験で落ちたけど、過去問は入手できたので満足でした。それでも、すごい倍率だった

これまで執筆した刊行物の一部。

ので合格できる気がしなくて。年齢制限ぎりぎりまで8回受けるくらいのつもりでした。

それはすごい情熱ですね。図書館というのも大事だったんですか？　それとも国会の職員？

国立国会図書館に入りたかった。ピンポイントで立法調査をやりたかったんです。

それまでの学生時代は、本当にいい加減で。調査局の業務を知ったときに天命が降ってきました（笑）。たぶん、人生で一番勉強したと思います。どうしても「ここに行きたい！」と思って。死に物狂いで勉強して、幸い2回目で合格できました。

◆
◆
◆

お子さんが3人いらっしゃるとか。

中学生1人と、小学生2人です。

この職場は男女ほぼ同数ということもあり、同じ立場の人がたくさんいるのは、すごく心強いです。上の子を妊娠したときに、大きいお腹で調査局の廊下を歩いていたら、課も違ってお話ししたこともなかった女性の管理職の方が、「大丈夫よ、仕事しながらでもちゃんと育てられるから」と声をかけてくださったことを覚えています。

先輩たちが切り開いてくれたからこそですね。

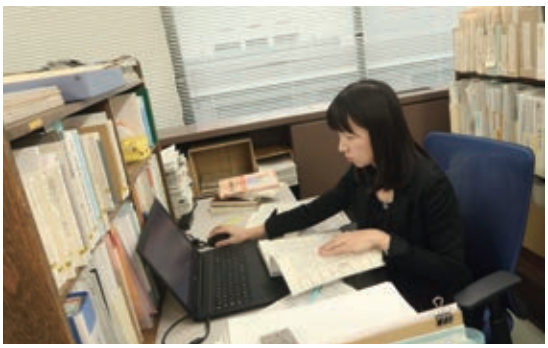
制度だけじゃなく、特に今の課は子どもの話が自然にできる雰囲気の職場で。理解がある上司、同僚に恵まれています。

お子さんはお母さんの仕事に興味を持っていますか？

図書館に興味があるかはわからないけど、結婚しても出産しても働くのが当たり前と思ってそうですね。今の子はそれが普通かもしれないですが。このインタビューの話をいただいたとき、ちょっと迷って一日考えさせてもらったんですけど、家に帰って話をしたら、子どもが「いいじゃない！」「お母さんすごい！」と後押ししてくれました。

お子さんに感謝しなければ（笑）。

◆
◆
◆



調査業務の今後について、自分がこうしたいとかありましたら。

採用試験で小論文があり、テーマは「紙について」だったんです。それで、電子資料にはもちろん便利さも利点もあるけれど、やっぱり紙資料はなくならないというか、直接手に取って読める紙の良さは捨てがたいということを書きました。時々それを思い出します。図書館らしさを大事にしながら、調査をしていきたいです。

やはり採用試験が原点なんですね。

今でも仕事で辛いことがあると、「あんなに入りたかったところで働いているんだから頑張れ」と、自分で自分に言うときがあります。忙しすぎたり、難しかったり、仕事だから色々あります。

でもやっぱり、調査が好きなんでしょうね。ここには何でもあるじゃないですか、本が。書庫の中を「探検」して。急いでいるときは「広すぎる！」って思うんですけど。見つかりそうもないようなことも聞かれるので、聞かれたことにピッタリ合う資料を探し当てたときは、宝探しで宝を見つけた気分です（笑）。調べものが好きだから、続けているんだと思います。

本屋にない本

没後50年藤田嗣治本のしごと
Léonard Foujita private on works
文字を装う絵の世界-展図録

藤田嗣治［画］ 林洋子 監修
キュレイターズ
c2018 319p 21cm
<請求記号 KC314-L75>

装幀に心ひかれて本を手に取る。誰しもこんな経験があるのではないだろうか。19世紀後半から20世紀中葉のフランスでは愛書文化が花ひらき、エディション番号付きの限定本や著名画家による挿絵が入った豪華本は愛書家にとって絶好のコレクション対象となった。画家・藤田嗣治がパリに渡った当時、挿絵本の刊行が隆盛を迎えていた。猫や乳白色の裸婦をモチーフにした優美な油彩画でよく知られる藤田だが、今回は彼の別な魅力に迫る一冊を紹介する。

本書は、藤田の没後50年にあたる2018年に、西宮市大谷記念美術館をはじめ国内4か所を巡回した展覧会の図録である。展示の主眼は、挿絵や表紙といった「本のしごと」と、妻や親しい友人に宛てた手紙や絵葉書におかれた。A5判とコンパクトながらも300ページ超に及ぶ本書には、展覧会の副題どおりまさに「文字を装う絵の世界」が広がる。「絵」と「言葉」の両要素から構成される作品であふれる本書は、見ごたえだけでなく読みごたえも十分な図録となっている。また、多くの図版に解説がつけられており、藤田の油彩画作品しか知らない読者も楽しめるはずだ。

ざっと眺めてみれば、その多彩な表現に驚く。「本のしごと」でとられた手法は水彩画、木版画、銅版画等、多岐にわたる。油彩画でなじみ深い、曲線的で繊細な画風の挿絵はもちろんのこと、東洋的な図版や浮世絵風の作品などもあり、目新しい。洗練されたレイアウトや個性的なページ装飾には藤田の意匠が光る。また、フランスでの「本のしごと」のみならず、日本での書籍の挿絵、雑誌の表紙、新聞連載の挿絵なども広く収録されており、出版地や年代の変遷とともに作品をたどれるのも本書の魅力だ。

さらに特筆すべきは書簡類だ。美しい彩色の絵とぎっしりと並んだ文字によって、当時の生活がみずみずしく描かれている。フランスや一時滞在先であったニューヨークの文化、流行にも言及されており、史料的価値も高いだろう。千手観音になって筆をとる自身、妻が乗る飛行機を磁石で引き寄せようとするイラストなど表情豊かでコミカルな絵にあふれた紙面からは、藤田の人柄が垣間見えるようである。

本書自体にも工夫が凝らされている。書簡の図版部分には薄い用紙が用いられ、片面印刷となっている。ページをめくる感触は、さながら実際の手紙を読んでいるかのようだ。また、各章の扉はトリミングした藤田の作品に、解説文を大胆に重ねるデザインをとる。この図録の装幀に思いをめぐらせながら、藤田による「文字を装う絵の世界」を堪能するのもよいかもしれない。

（福島 優寿）

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。
このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

CLOSE

休館日のNDL

毎月第三水曜日は休館ですが、職員は出勤しています。
さてさて何をしているのかな？

防災訓練

年に１回、防災訓練（総合訓練）を行っています。利用者役を職員が演じます。ここでは東京本館の例をご紹介します。今回は、土曜の午後２時に地震が発生したあと本館６階食堂で出火したという設定です。

1 怪我人を非常用階段避難車で運びます。
2 食堂では必死の消火活動！
3 利用者サービス部門に設置された「現地災害対策本部」。
4 利用者を安全な本館・新館ホールに誘導します。
5 すべての閲覧室から避難できたか、点呼を行います。

閲覧室での資料の整備

開館日にはできない、資料の整備を行います。ここでは東京本館の二つの閲覧室をご紹介します。

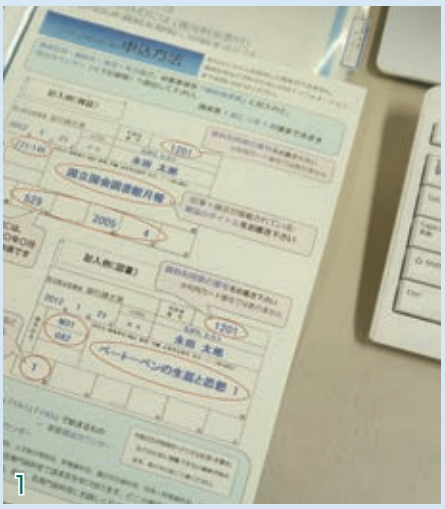
新聞資料室。開架の新聞の入替えを行います。力仕事です。

科学技術・経済情報室。開架の雑誌の入替えのほか、資料の並び間違いはないか、資料に傷みはないかなども確認します。上の写真では、ぼーっと棚を眺めているように見えますが、入念にチェックしている最中なのです。

代替訓練

万が一利用システムがダウンした場合、紙での資料請求に切り替えます。その「代替業務」の訓練を、年に１回行っています。様々な資料を請求するよう、利用者役の職員には多彩なシナリオが割り振られます。

東京本館



1

2

3

4

5

6

1,2 紙による請求方法の案内を、端末の横に配布していきます。
3,4 資料請求時に必要な「資料利用票」を受け取る「切替カウンター」。
5 資料請求票に記入。
6 資料請求票の仕分けの準備（ブックトラック）。手前は資料請求票を送る気送子。
7 問合せに対応する練習も。

7

いつもはシステムを使って申し込む資料の閲覧も、手書きの資料請求票で申し込みます。貸付や複写の手続きも手作業になるので、細かな点に気を配って処理します。

関西館

国際子ども図書館

児童書研究資料室。入退室手続き、資料の請求受付、貸付･返却、複写受付等を、一つのカウンターで行っているので、各人がさまざまなケースに対応できるように訓練を行います。

このほかにも、普段の日はカウンター業務で全員が集まれない課では、研修を行うなど、休館日を活用して、日々の業務に備えています。

訓練終了後に提出された結果票を確認。

ミニ電子展示「本の万華鏡」第27回

百貨店ある記

～買うときめき、めぐる楽しみ～

台麓図案会 編『台麓図案会作品展覧会図録』第5回
芸艸堂　大正9-13

『今様』（第8年新年號）
松屋呉服店　1913

百貨店――それは、お子様からお年を召した方まで誰もが心華やぐ、身近な非日常空間。電車でも行けるワンダーランド。

はじめまして。百貨店に詳しい案内係・ヤギです。

今回の「本の万華鏡」では、日本の百貨店が形づくられた明治末期から昭和初期までを中心に、黎明期の百貨店にまつわる文化や歴史をご案内しよう。

インターネットでご覧いただけます

紹介資料の一部　※資料の詳細は「本の万華鏡」をご覧ください。

屋上庭園

陳列販売方式

ショーウィンドウ

エレベーターガール

食堂

女性店員

建築

新聞広告

ポスター

「本の万華鏡」は国立国会図書館のさまざまな資料を、インターネットでご覧いただける展示会です。今回、第27回はスマートフォンからの閲覧にも対応しました。お手元のスクリーンを通して、資料に残された昔の百貨店の姿をぜひご覧ください。

https://www.ndl.go.jp/kaleido/

本の万華鏡　検索

館内スコープ

消費税率変更の裏で

私は総務部会計課調達係で働いています。調達係の主な仕事は、国立国会図書館の運営や事業に必要な「物」や「サービス」の契約事務です。その中で私は書籍搬送機※やエレベーターなどの図書館設備の保守契約や、データベースの契約などを担当しています。

さて、皆さんもご存じのとおり昨年10月に消費税率が8％から10％に変更になりましたね。消費税というと日常の買い物など身近なものがよく話題になりますが、国立国会図書館の契約にももちろん消費税がかかります。そのため、担当しているいくつもの案件の契約金額（消費税額を含む）が変わり、一大事でした。

そうはいっても、「本体価格×0・08」だった消費税額を「本体価格×0・10」にして計算するだけでしょう？　と思われるかもしれません。違うのです。もう少し複雑なのです。

日常の買い物ではあまり意識しないかもしれませんが、消費税額は「作業完了時」の税率によって決まります。そのため、物の購入の場合の消費税額は「納品時」の税率が、工事の場合は「完成時」の税率が適用されます。

では、年間の設備保守の場合はどうなるのでしょうか。年間の設備保守の場合、毎月作業をする案件もあれば、2か月に1回、半年に1回、年に1回作業をする案件もあり、作業頻度はさまざまです。そのため、消費税額も単純に「本体価格×0・08」を10月から一律「本体価格×0・10」にして計算するのではなく、案件ごとに作業完了のタイミングが消費税率変更前後で何回ずつあるか、さらに各回の作業金額はいくらか、といった点を契約相手にしっかりと確認して、消費税率8％と10％の部分を分けて計算していきます。「この案件は年に1回、12月に作業をするから全額10％」、「この案件は年に3回作業して、9月までに1回、10月から2回、しかも各回の作業金額が違うから……」と、案件1件1件について計算していきます。

さらに、この計算は係内で電卓を叩きながら幾重にもチェックします。このチェックを経て、ようやく変更後の金額がかたまります。そのあとにも、変更契約書を作成したり、とまだまだ作業が続きます。このような作業を20件以上並行してこなしたので、今回の消費税率変更は忘れられないものとなりました。

私たち調達係の仕事は裏方ですが、国立国会図書館の運営や事業がスムースに進むよう、見えないところでしっかり支えています。

（会計課 調達係　サマー）

※2019年9/10月号の館内スコープでその工事について紹介しています。

令和2年度国立国会図書館職員採用試験

令和2年度の職員採用試験を次のとおり実施します。

○職務内容

●総合職試験、一般職試験（大卒程度試験）、障害者（係員級）採用試験（大卒程度試験）

調査業務・司書業務・一般事務等の館務

●資料保存専門職員採用試験（大卒程度試験）

各種図書館資料の保存修復業務等

●情報システム・設備専門職員採用試験（大卒程度試験）

情報システム及び設備機器に係る企画・調達・維持・管理業務等

○障害のある方へ

受験資格を満たせば、障害者（係員級）採用試験（大卒程度試験）、総合職試験、一般職試験（大卒程度試験）、資料保存専門職員採用試験（大卒程度試験）、情報システム・設備専門職員採用試験（大卒程度試験）のいずれか1つを受験することが可能です。

障害者（係員級）採用試験（大卒程度試験）以外の試験を受験する場合も、受験上の配慮を行います。

障害のある方を対象とした選考採用（係長級）の実施も予定しています。詳細は決定次第、国立国会図書館ホームページに掲載します。

○試験案内及び受験申込書の入手方法

次のいずれかの方法で入手可能です。

・東京本館、関西館又は国際子ども図書館に来館

・郵便で請求

・国立国会図書館ホームページからダウンロード

郵便で請求する場合の請求方法やダウンロードする場合は、国立国会図書館ホームページの採用情報のページを参照してください。

URL　https://www.ndl.go.jp/jp/employ/index.html

○問合せ・資料請求先

総務部 人事課 任用係

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1

電話　03（3506）3315（直通）

試験の概要

（詳細は試験案内またはホームページをご確認ください。）

種類	受験資格※	受付期間	第1次試験日	会場
総合職試験	S61.4.2～H12.4.1生	R2.3.27（金）～4.10（金）	R2.5.16（土）	第1次試験は東京及び京都。第2次試験及び第3次試験は東京
一般職試験（大卒程度試験）				
資料保存専門職員採用試験（大卒程度試験）				
情報システム・設備専門職員採用試験（大卒程度試験）		R2.4.21（火）～5.8（金）	R2.6.13（土）	東京
障害者（係員級）採用試験（大卒程度試験）	S36.4.2～H12.4.1生 障害者手帳等所持			

※H12.4.2以降に生まれた方でも、総合職試験は大学卒又は卒業見込、それ以外の試験は大学・短大・高専卒又は卒業見込であれば受験可能です。
※日本の国籍をお持ちでない方、国会職員法第2条の規定により国会職員となることができない方は受験できません。
※申し込むことができる試験の種類は、1つのみです。（総合職試験には一般職試験（大卒程度試験）と併願できる総合職特例制度があります。）

国際子ども図書館展示会「スポーツと子どもの本」

国際子ども図書館では、今夏に2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されることを踏まえ、スポーツをテーマとした子どもの本の展示会「スポーツと子どもの本」を、3月24日（火）から6月28日（日）まで開催します。

この展示会では、からだを動かす楽しみを表現した絵本や、スポーツを描いた児童文学などをご紹介します。また、1964年の東京オリンピックを、当時出版された子ども向け雑誌などを通して振り返るほか、パラリンピックについて扱った児童書も展示します。

○開催期間　3月24日（火）～6月28日（日）
※月曜日、国民の祝日・休日（5月5日のこどもの日は開館）、毎月第3水曜日（資料整理休館日）は休館
○開催時間　9時30分～17時
○会場　国際子ども図書館 レンガ棟3階 本のミュージアム
○問合せ先　国際子ども図書館 資料情報課 展示係
電話　03（3827）2053（代表）

展示会「スポーツと子どもの本」ちらし

研究会「新たな現代中国研究の推進―国立国会図書館関西館及び東洋文庫の所蔵資料をめぐって」開催のご案内

国立国会図書館は、公益財団法人東洋文庫と共催で、研究会「新たな現代中国研究の推進―国立国会図書館関西館及び東洋文庫の所蔵資料をめぐって」を開催します。本研究会では、国立国会図書館関西館所蔵中国語資料の一部である上海新華書店旧蔵書コレクションを使用した研究等について、発表等を行います。開催要領は左記のとおりです。

○日時　令和2年4月18日（土）10時30分～16時30分
○会場　関西館1階会議室
○内容
プログラム等の詳細は、左記をご覧ください。
国立国会図書館リサーチ・ナビ
「国立国会図書館関西館・（公財）東洋文庫合同企画研究会『新たな現代中国研究の推進―国立国会図書館関西館及び東洋文庫の所蔵資料をめぐって』」
https://rnavi.ndl.go.jp/asia/entry/toyo2020.php
○参加費　無料
○申込方法　事前申込不要
○問合せ先　関西館 アジア情報課 アジア第二係
電子メール　m-asia2@ndl.go.jp
FAX　0774（94）9115
電話　0774（98）1390

関西館への資料移送に伴う資料の利用休止について

国立国会図書館では、日々増え続ける資料を適切な環境で保存し、書庫の有効な利用をはかることを目的として、東京本館資料の一部を関西館へ移送します。

つきましては、移送期間中は以下の資料の利用を休止します。利用者の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

○移送対象資料
東京本館所蔵の洋図書　約28万6千冊
（昭和43年3月までに整理されたもの）
○利用休止期間
令和2年4月1日～令和2年9月30日まで（予定）
※利用休止中の資料は、国立国会図書館オンラインの所蔵一覧画面に「作業中」と表示してお知らせします。
○移送後の利用
関西館で利用が可能です。東京本館に取寄せての利用も可能です。資料の状態によっては取寄せをお断りすることもありますので、ご了承ください。
○問合せ先
（令和2年9月30日まで）
利用者サービス部 図書館資料整備課 図書整備室
電話　03（3581）2331（代表）
（令和2年10月1日以降）
関西館 文献提供課
電話　0774（98）1200（代表）

新刊案内

レファレンス　828号

令和2年の年頭のご挨拶
アメリカ連邦議会下院倫理委員会の歴史と改革―議会倫理局の設置とその評価をめぐって―
米国における重要インフラのサイバーセキュリティ強化策
我が国における世界自然遺産の状況
ドイツにおける連邦から州への財政援助―基本法が定める共同任務及び財政支援―（資料）

A4　106頁　月刊　1,000円（税別）
発売　日本図書館協会

入手のお問い合わせ
日本図書館協会
〒104-0033　東京都中央区新川1-11-14
電話　03（3523）0812

国立国会図書館の書誌データに関するお知らせ

NDL-Bibのサービス終了について（予告）

令和2年12月に、国立国会図書館書誌提供サービス（NDL-Bib）を終了します。令和3年1月からの書誌データ提供サービスは国立国会図書館サーチおよび当館ホームページに掲載するJAPAN／MARC週刊版などをご利用ください。

詳細については当館ホームページをご覧ください。
ホーム＞書誌データの作成および提供＞書誌情報提供サービス（NDL-Bib）
https://www.ndl.go.jp/jp/data/data_service/index.html#Bib

『日本目録規則2018年版』適用細則案の公開

国立国会図書館では、令和3年1月から『日本目録規則2018年版』の適用を開始する予定です。『日本目録規則2018年版』の適用を促進し、広く国内に普及させる取組の一環として、当館ホームページに当館適用細則案および基準案を公開しています。

ホーム＞書誌データの作成および提供＞日本目録規則2018年版（NCR2018）について
https://www.ndl.go.jp/jp/data/ncr/index.html

また、適用後の「JAPAN／MARC MARC21フォーマット」の変更点もホームページに公開しています。これらの内容については、『NDL書誌情報ニュースレター』で詳しく紹介していますので、あわせてご覧ください。

（収集書誌部）

おもな人事

＜異動＞※（　）内は前職

令和2年2月1日付け
総務部長事務取扱を解く（副館長、総務部長事務取扱）　田中　久徳
総務部長（利用者サービス部長）　片山　信子
利用者サービス部長（利用者サービス部副部長）　遊佐　啓之

令和元年度東日本大震災アーカイブ国際シンポジウム「震災伝承施設と震災アーカイブ」を開催しました

令和2年1月11日、東北大学災害科学国際研究所多目的ホールにて、東日本大震災アーカイブ国際シンポジウムを開催しました。本シンポジウムは、国立国会図書館と東北大学災害科学国際研究所との共催により、毎年1月に開催しているものです。

今年度は、ハワイの太平洋津波博物館館長のマーリーン・スー・ムリー氏が同館の取組を紹介したほか、日本の震災伝承施設の事例報告も行われました。また、北海道胆振東部地震及び熊本地震の震災アーカイブの取組事例が報告されました。国立国会図書館からは、国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（ひなぎく）の取組とこの一年の進捗について報告を行いました。

続くパネルディスカッションでは、震災伝承施設や震災アーカイブの防災教育への活用や、事業継続性等について、参加者も交えて活発な議論が行われ、震災の記憶と教訓を後世に継承することの重要性を改めて確認する機会となりました。

太平洋津波博物館館長のマーリーン・スー・ムリー氏の報告

国立国会図書館からの報告

シンポジウムの詳細は以下に掲載しています。
https://kn.ndl.go.jp/static/2019/11/07

令和元年度国立国会図書館長と行政・司法各部門支部図書館長との懇談会

令和元年12月6日、東京本館において標記の懇談会が開催されました。これは、各府省庁と最高裁判所に置かれた支部図書館の充実に資するため、支部図書館長等を招いて毎年行っているものです。支部図書館25館、分館4館から、42名の支部図書館長、支部図書館職員が参加しました。

国立国会図書館（中央館）は、最近のトピックとして、マラケシュ条約の発効に伴う図書館サービスへの影響やジャパンサーチ試験版の公開について紹介したほか、次世代システム開発研究室が先進情報技術を応用して開発した「次世代デジタルライブラリー」の機能について報告しました。

支部図書館からは、植田知明支部農林水産省図書館農林水産政策研究所分館司書専門官が、同館の沿革、課題、広報等に係る最近の取組について報告しました。また、岩本康志国立国会図書館専門調査員・調査及び立法考査局経済産業調査室主任が、「政策形成における各種データの活用及びその共有」と題する特別講演を行い、近年、行政府省等において注目・推進されているＥＢＰＭ（証拠に基づく政策形成）について、証拠となるデータの入手・分析方法を紹介し、データを活用した政策立案を行うための体制整備の必要性、学界と行政が協調して取り組むことの重要性等を指摘しました。

令和元年度国立国会図書館長と行政・司法各部門支部図書館長との懇談会

＃16　国際子ども図書館
本のミュージアム前の廊下
photo by Kenzi

3

NATIONAL DIET LIBRARY MONTHLY BULLETIN 2020.3

NO.707
MARCH
2020

CONTENTS

01 <Book of the month - from NDL collections>
Walking in the fog—A letter from Nakaya Ukichiro

06 Strolling in the forest of books (22)
A legendary storyteller: Baba Bunko and his writings

14 Working at the NDL, Episode 3

18 What do librarians do on the days the NDL is closed?

22 Kaleidoscope of Books (27)
Department stores—the joy of discovering, the pleasure of buying

17 <Books not commercially available>
Botsugo 50nen fujita tsuguharu no shigoto

24 <Tidbits of information on NDL>
What hath the hike in consumption tax wrought?

25 <NDL Topics>

国立国会図書館月報

発行所 国立国会図書館
編集責任者 三浦 良文

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03（3581）2331（代表）
FAX 03（3597）5617
E-mail geppo@ndl.go.jp
https://www.ndl.go.jp/

令和2年3月号（No.707）
令和2年3月1日発行

印刷所 株式会社 丸井工文社

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ（https://www.ndl.go.jp/）＞刊行物＞国立国会図書館月報でご覧いただけます。

ISSN 0027-9153

NATIONAL DIET LIBRARY MONTHLY BULLETIN

2020.3

国立国会図書館
National Diet Library, Japan

国立国会図書館